

## 高齢者の事例検討（1）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

介護保険制度が始まってから、介護従事者等の研修会、勉強会が多く開催されています。また、ケアマネジャーにかかる研修は、新規、更新、主任、認知症など多くのものが開催されており、それを受講しけなければならなくなってきているのが現状です。

ケアマネジャーを始めとする介護従事者等のレベルアップと情報の共有などを目的とした研修会、勉強会が、自主的に地域で行われています。その中で事例検討を行っている会が多くあります。

事例検討の主な目的は、

- ・多くの参加者が意見発表し、内容理解の質向上
- ・事例発表者・参加者が、今後の支援・援助を適正・的確に実施することの共有
- ・司会者として、サービス担当者会議等の進め方の向上
- ・事例発表することで、内容の点検、きづき、現状等の再確認
- ・制度、地域の状況、考え方の差異などの確認・発見
- ・前向きにものごとを捉え、客観的発想の共有
- ・協力・援助の姿勢の確認

などです。

事例検討にあたっては、目的を参加者が意識した中で意見交換をし、合理的な時間配分で、中身を濃くした内容になるように進めることが必要です。

「進めるにあたっての一般的事項」

- ①事例配布資料の定型化または記述事項の統一化によること
- ②参加者は進め方及び時間配分を了承して参加のこと
- ③司会者と報告者は事前に打ち合わせを行い内容の確認を行うこと
- ④参加者は必ず1回以上発言を行うこと
- ⑤終了した後、各自で事例検討内容の概略整理を行うこと
- ⑥注意事項
  - ・プライバシーに注意すること
  - ・発表は実名でも、その他はB 男などと推測できない表記とすること（資料には番号をつけ、会議の最後に回収することもある）
- ⑦質問の仕方
  - ・個人的な興味からの質問は原則的にしないこと
  - ・問題解決のヒントを引き出す質問を考えること

- ・参加者は質問の情報を得る事の意味を考えながら聞くこと
- ・質問の意図がわからないときは質問の意図を聞くこと

⑨意見の述べ方

- ・報告者の批判ではなく、気づきのあるようにすること
  - 「この点はどのように考えられたのか」
  - 「こんなイメージが浮かんできたけど」
- ・援助者の資源を活用する援助を考えること  
(参加者のやり方を押しつけないこと)

などですが、参加者が報告者と同じ気持ちで考え、悩み、前向きに検討していくことが一番大切ですが、司会者の進行管理によっても話の内容が変わってきますので注意することも必要です。